

安全データシート

版 : 1.00
作成/改訂日 : 2021/02/24
番号 : LCAV-0002-0005B

1. 化学品及び会社情報

製品名及び製品コード: シアン分析発色液用 B

供給者: 株式会社島津製作所
京都府京都市中京区西ノ京桑原町1
電話番号:075-823-1111 FAX 番号:075-811-3188

緊急連絡電話番号: 分析計測事業部 ライフサイエンス事業統括部 LC ビジネスユニット 075-823-1274

推奨用途及び使用上の注意: 試験研究用

2. 危険有害性の要約

GHS 分類:

物理化学的危険性:
可燃性固体: 分類できない
自然発火性固体: 分類できない

健康に対する有害性:
急性毒性(経口) 区分 4
皮膚負極性・刺激性 分類できない
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 分類できない
皮膚感作性 分類できない
発がん性 分類できない
生殖毒性 分類できない

環境に対する有害性:
水生毒性(急性) 区分 3
水生毒性(慢性) 区分 3

GHS ラベル要素:

絵表示又はシンボル:



注意喚起語: 警告

危険有害性情報:

飲み込むと有害
水生生物に有害
長期的影響により水生生物に有害

注意書き:

安全対策: 環境への放出を避ける。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしない。
取扱い後はよく手を洗う。

応急処置: 飲み込んだ場合: 口をすすぐ。気分が悪いときは、医師の処置を受ける。

廃棄： 内容物や容器は関係法令に基づき適正に処理する。

その他： 情報なし

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別： 単一製品

化学名又は一般名： 3-メチル-1-フェニル-5-ピラゾロン

別名： 1-フェニル-3-メチル-5-ピラゾロン

成分：

| No. | 成分名 | CAS No. | 化学式 | 含有率 | 化審法 官報公示番号 | 安衛法 官報公示番号 |
|-----|----------------------|---------|--|--------|---------------|---------------|
| 1 | 3-メチル-1-フェニル-5-ピラゾロン | 89-25-8 | C ₁₀ H ₁₀ N ₂ O | 90 %以上 | 5-287 | 公表 |

4. 応急措置

吸入した場合： 直ちに新鮮な空気のある場所に移し、鼻をかませ、うがいをさせる。
皮膚に付着した場合： 直ちに付着部を多量の水で十分に洗い流す
眼に入った場合： 直ちに流水で十分に洗い流す。
飲み込んだ場合： 直ちに水または食塩水を飲ませて吐かせる。必要に応じて医師の処置を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤： 水、粉末・二酸化炭素、乾燥砂、泡
使ってはならない消火剤： 特になし
特有の危険有害性： 情報なし
特有の消火方法： 速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合は、容器および周囲に散水して冷却する。
消火を行う者の保護： 消火作業の際は、必ず保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置： 作業の際は適切な保護具を着用し、飛散したものが皮膚に付着したり、粉塵を吸入しないようにする。風上から作業し、風下の人を退避させる。
環境に対する注意事項： 流出した製品が河川などに排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。
回収、中和： 飛散したものは掃き集めて空容器に回収する。飛散した場所は水で十分に洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い：
技術的対策： 皮膚に付いたり、粉塵を吸入しないように必要に応じて適切な保護具を着用する。
注意事項： みだりにエアロゾル、粉塵が発生しないように取扱う。
保管：
安全な保管条件： 容器は密栓して冷暗所に保管する。
安全な容包装材料： ガラス、ポリエチレン、ポリプロピレンなど

8. ばく露防止及び保護措置

| | |
|-------------------|---|
| 設備対策: | 取扱いについては、できるだけ密閉された装置、機器または局所排気装置を使用する。 |
| 管理濃度: | 設定されていない |
| 許容濃度 | |
| 日本産業衛生学会(2016年度版) | 設定されていない |
| ACGIH(2015年度版) | 設定されていない |
| 保護具: | |
| 呼吸用保護具: | 必要に応じて防じんマスクを着用する |
| 手の保護具: | 不浸透性保護手袋 |
| 眼の保護具: | ゴーグル型保護眼鏡 |

9. 物理的及び化学的性質

| | |
|----------------|--|
| 外観: | 結晶性粉末 |
| 色: | 白色—淡黄色 |
| 臭い: | 無臭 |
| pH: | 4-4.4(飽和水溶液, 20 °C) |
| 融点・凝固点: | 127-131 °C |
| 沸点, 初留点及び沸騰範囲: | 分解 |
| 引火点: | データなし |
| 発火点: | 400 °C以上 |
| 比重: | 1.12 (20 °C) |
| 溶解度: | 水 ; 3.3 g/水 1 L(20 °C) 有機溶媒 ; メタノール、酢酸に可溶 |

10. 安定性及び反応性

| | |
|-------------|-----------------------|
| 反応性: | 強酸化剤と接触すると、反応することがある。 |
| 化学的安定性: | 通常条件で安定である。 |
| 避けるべき条件: | 日光、熱 |
| 混触危険物質: | 酸化剤 |
| 危険有害な分解生成物: | 一酸化炭素、窒素酸化物 |

| | |
|--------------------|--|
| 急性毒性: | 飲み込むと有害(区分4) 経皮: データ不足のため分類できない 吸入(蒸気): データ不足のため分類できない 吸入(粉塵・ミスト): データ不足のため分類できない マウス 経口 LD50 = 1683 mg/kg |
| 皮膚腐食性及び皮膚刺激性: | 区分外 ウサギの皮膚をごく軽度に刺激するが、区分外とした。 |
| 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性: | 区分外 ウサギの眼に対して刺激性がないので、区分外とした。 |
| 呼吸器感作性又は皮膚感作性: | 呼吸器感作性: データ不足のため分類できない 皮膚感作性: 区分外 モルモットを用いたパッチテストでは感作性は認められなかった。 |
| 生殖細胞変異原性: | データ不足のため分類できない |

| | |
|----------------|---|
| | 細菌を用いた復帰変異原性試験、哺乳動物細胞を用いた染色体異常試験、マウスを用いた小核試験、いずれも陰性であった。 |
| 発がん性: | 区分外 ラットおよびイヌの 26 週間投与試験で、腫瘍変化あるいはその前駆病変の増加は認められなかったため、区分外とした。 |
| 生殖毒性: | 区分外 ラットを用いた生殖毒性試験で、母動物については、流産および早産はみられなかった。また分娩異常もみられず、出産率、妊娠期間、着床数、死産児率、生産児数および出生率に影響はみられなかったため、区分外とした。 |
| 特定標的臓器毒性(単回暴露) | データ不足のため分類できない マウスおよびラットは経口、皮下および静脈内、イヌでは静脈内を投与経路とした試験で、30 mg/kg 以上の用量でいずれもまばたき、流涙、流涎、うずくまり、運動失調などの中枢神経作用が認められたが、100 mg/kg の用量での症状変化はマウスでは 60 分後に、ラットでは 120 分後に消失したため、区分外に相当するが、分類を確定するにはデータ不足であり、分類できないとした。 |
| 特定標的臓器毒性(反復暴露) | データ不足のため分類できない ラットおよびイヌに 26 週間静脈内投与した試験で、ラットでは 30 mg/kg 以上の投与群で、よろめき歩行、うずくまり、肝臓重量の低値、100 mg/kg の投与群で、プロトロンビン時間の延長、ALP の高値、血清中総コレステロール、中性脂肪とリン脂質の低値が認められた。イヌにおいてはラットと同様な症状および腎臓の対体重比の高値、腎尿細管上皮での色素顆粒の沈着が認められたが、他の投与経路のデータがなく、分類できないとした。 |
| 吸引性呼吸器有害性 | データ不足のため分類できない |

11. 環境影響情報

| | |
|----------|---|
| 生態毒性 | |
| 魚毒性: | 水生毒性(急性) 水生生物に有害(区分 3) 水生毒性(慢性) 長期的影響により水生生物に有害(区分 3) 魚類(コイ) LC50 = 53.3 mg/L/96H |
| 残留性・分解性: | 難分解性と判断される物質である。 |
| 生体蓄積性: | データなし |

12. 廃棄上の注意

| | |
|-----------|---|
| 残余廃棄物: | 可燃性溶剤と混合して、スクラバーを具備した焼却炉で焼却処理を行う。または、都道府県知事の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理をする。 |
| 汚染容器及び包装: | 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。 |

13. 輸送上の注意

| | |
|-----------------|---|
| 国内規制: | 適用法令なし |
| 国連分類: | 分類基準に該当しない |
| 輸送の特定の安全対策及び条件: | 輸送に際しては直射日光を避け、容器の漏れのないことを確かめ、落下、転倒、損傷がないように積み込み荷くずれの防止を確実にを行う。 |

14. 適用法令

| | |
|------------|-----|
| 国内法規: | |
| 化学物質管理促進法: | 非該当 |
| 毒物及び劇物取締法: | 非該当 |
| 労働安全衛生法: | 非該当 |

15. その他の情報

引用文献: 有機化合物辞典、有機合成化学協会編、講談社(1985)

*この安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取り扱いには充分注意して下さい。なお、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであり、特殊な取り扱いをする場合には、その用途・用法に適した安全対策を実施して下さい。また、含有量、物理／化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。この安全データシート(SDS)は、JIS Z7253 に基づいて作成しており、JIS Z7250:2010 に基づいて作成した製品安全データシート(MSDS)と記載事項は同一です。